SNS心身への影響議論

慶大でシンポジウム

シンポジウムで意見を交わすパネリストたち（１日午後、東京都港区で）

情報が心身に与える影響など、現代社会が抱える公衆衛生の課題について考えるシンポジウムが1日、東京都港区の慶応大三田キャンパスで開かれた。同大「X（クロス）ディグニティセンター」の主催で、医療や法律の専門家らが意見を交わした。

シンポでは、SNSが子どもの心身にもたらす影響について議論された。小児科医の今西洋介氏は、SNSの利用が1日に3時間を超える子どもはうつ病になりやすいとの米政府の報告を紹介。「子どもは発達が未熟で善悪の区別がつきにくい。暴力的なコンテンツに触れるほど犯罪につながるというデータがある」として、情報リテラシー教育の重要性を強調した。

豪州などでは子どものSNS利用を禁じる動きが出ているが、水谷瑛嗣郎・慶大准教授（メディア法）は「子どもをSNSに一切触れさせないのは、リテラシー教育や『表現の自由』の点で問題がある」との見解を示した。

センターの共同代表を務める山本龍彦・慶大教授は、「（未成年への影響に関する）エビデンスが積み上がっており、日本での適切な規制について、もう少し真剣に議論しなくてはいけない」と話した。

(C)読売新聞社 無断転載・複製禁止。放送、出版等での二次利用の際は読売新聞社 記事利用担当 (mail: t-chizai06@yomiuri.com tel:03-6739-6961)まで